

米沢市立愛宕小学校 学校紹介

本校は、米沢市の南西部、斜平（なでら）山のふもとと愛宕地区に位置している。2021年（令和3年）に創立145周年を迎え、歴史と伝統のある学校である。校区は旧愛宕地区に加え、東は堀立川、北は蛭川を境とし、13町内を有している。

本校舎からは、南に吾妻山、西に斜平山を一望することができ、米沢の原風景というべき地理的景観を見渡すことができる。

本校区にはすばらしい斜平山の自然とともに歴史的な史跡も多く、上杉家の菩提寺である林泉寺や伊達政宗公と関わりのある覚範寺跡、上杉鷹山公ゆかりの「籍田」や「雨乞い」を行った史跡などがある。

10世紀頃の豪族居館として国の史跡に指定された「古志田東遺跡」は、本校の南側すぐ近くに位置し、教育環境として絶好の場所にある。また、本校区の南端にある「堀立川遊水地」は、植物や昆虫・水生生物等の観察に適した場所となっている。

土地利用においては、本校舎より西側の丘陵地がりんごを中心とした果樹栽培、市の特産品「雪菜」の栽培地となっており、斜平山のふもとから米坂線に至る一帯は米作に、米坂線より東方は比較的新しい住宅地となり市街地へと通じている。学校の前を通っている県道米沢環状線沿いには、大型スーパーマーケットや商店が立ち並び、郊外型の商店街としてにぎわっている。

保護者の職業は多様であり、万世橋成島線の道路の整備に伴う土地開発や宅地造成が進み、新興住宅が増えてきている。この傾向は今後も続くものと思われるが、少子化による児童数の減少を補うほどにはなっていない。

保護者や地域住民の教育への関心は高く、協力的である。地域とのつながりが深く、米沢市ではいち早く「地域学校協働本部事業」に取り組んできた。また、「食と農を考える会」の方々より「地産地消」をねらいとした給食食材の提供をはじめ、総合的な学習の時間には、地域の特産の雪菜の栽培法や調理法などを指導していただいている。



校章
(昭和62年制定)

校章は、古志田町在住の工芸家・志藤尚山氏のデザインによるもので、愛宕小の「愛」の文字を中央にし、斜平山に自生する「雪椿」の六枚の花弁を配している。「愛」の背景の空色は希望を、「雪椿」の朱赤は「黎明」を意味している。「雪椿」は日本海側に分布する低木で、冬の寒さや雪の重さに耐えて春に美しい花を咲かせることから、忍耐強く、たくましい子供になってほしいという願いが込められている。